



県北高校生サミット開催!!

～多賀高校生徒会が主催校として活躍～

文部科学省主催の主権者教育実践校として多賀高校が選ばれ、多賀高校生徒会が主催となって、県北地区の10校の生徒が集い「よりよい学校づくり」について意見を交わしました。

取扱い 2025年(令和7年)11月21日 金曜日



主権者意識を醸成

県北の高校10校の生徒がテーマに基づいて議論を交わす「県北高校生サミット」が13日、日立市役所で行われた。主権者教育の一環で、各校代表の生徒会役員ら計約40人が参加。ワークショップ形式で、「よりよい学校づくり」について意見を交わした。校則の見直しや学校の課題への理解を深めた。

県北10高の生徒が議論

「よりよい学校」探る

日立

主張的に社会参画する主権者・消費者を育てる実践事業として開催。今後3年年にわたりて生徒たちの主権者意識の醸成や実践に取り組む。文部科学省の主権者教育実践校に県内では県立多賀高が選ばれているのを機に、初年度にサミットを開いた。

参加したのは、多賀高のほか、県立の日立北、日立二、日立商、磯原郷、高萩、高萩清松、太田一、太田西山、私立の明秀日立の計10校。

生徒たちは日立市議会の本会議場や委員会室で、茨城大生の進行や助言を受けながら議論を進めた。よりよい学校づくりの実現に必要な段階として、多様な項目を設けて話した。

校則については、学校によつて内容が異なり、「ずっと前のまま見直されてしまう」と前のこと

2025年11月21日(金)付け茨城新聞



現への手段として生徒アンケートの実施も挙げた。進行を担当した認定NPO法人カタリバ(東京)の担当者は、「課題解決のため学校で対話する機会は少ない。どう対話を取り入れられるか考えてほしい」

と講評した。日立北高の友部夏妃さん(17)と新井友愛さん(16)は、「校則一つ変ええてみては」などの声があった。具体的に何を変えたいかについても意見を出し合い、「男女差や上下関係なく発言し、個性を出せる環境づくり」「行事が多く楽しく交流できるようにする」「いじめ・差別のない学校」などを提言した。実現への手段として生徒アンケートの実施も挙げた。進行を担当した認定NPO法人カタリバ(東京)の担当者は、「課題解決のため学校で対話する機会は少ない。どう対話を取り入れられるか考えてほしい」

事業では今後、学校をどう変えるかや地域活性化についてを議論し、市町村への提言も検討する。

(綿引正雄)



「The personal is political」～個人的なことは社会のこと～
生徒の皆さんの経験は、社会とつながっています。
みんなが声を上げ、話し合うことで社会を少しずつ変えていくことができると言えます。学校が変われば、社会が変わると信じてもいいのではないでしょうか。